

# 石産協通信

sekisankyo tsuushin

## 第29号

発行日: 2013年7月15日《隔月15日発行》



一般社団法人  
日本石材産業協会  
The Japan Stone Industry Association

東京都千代田区神田多町2-9 日計ビル2階  
Tel.03-3251-7671 Fax.03-3251-7681  
<http://www.japan-stone.org/>  
企画・編集・発行:広報委員会

# 義務的、事務的活動 から脱却しよう

(社)日本石材産業協会 会長 射場一之

**本** 年の年次大会は、「石材産業の明日を拓く」をテーマに開催させていただきました。

オラクルひと・しくみ研究所代表で博士(情報学)の小阪裕司氏による『こうすれば業界が元気になる』と題した基調講演では、

1. ビジネスが、うまくいかないのは何故か?
2. ビジネスは何に重点をおいて活動するといいのか
3. ビジネスに、明日からすぐ使える実践法

について、お話しいただきました。

講演の内容を少々乱暴ながら私なりにまとめると次のようにになります。

「消費者はお墓を建てない理由があるわけではなく、お墓を建てる理由がわからないだけ。『お墓参りの習慣のある暮らしの豊かさ』を一度知ってしまえば、消費者はもうそれを知らない頃には戻れない。売るということは、『価値』をお客さまの心の中に生むこと。つまり、お墓を建てる理由を教えること。」

身近に石のある環境がいかに豊かであるか、お墓参りという習慣を持たないと人生でいかに損をするか、ということを「伝道」するのは業界として最大の課題であると同時に、個店にとっても、重要な課題の一つと言えるでしょう。

私たちは商売敵ではなく、互いに成長を競い合っていく仲間であるべきだと私は考えます。石材産業の明日を拓くためには、皆が持ち味を發揮し、互いを尊重し、協力し合うことが必要です。

自分で必死に努力することから逃げ、そのことを棚に上げて現状への不平不満を口にし、要求ばかりしていては自身の明日を拓くことなどできません。現状に満足しきっている人、安穏としている人にも明日を拓くことはできないでしょう。自分が望む方向へ自らを動かす努力をする人だけが明日を拓くことができるのだと思います。

石産協の活動は、けっして、社業・商売に余裕のある人々だけによるボランティア活動ではありません。私たちの活動の特長は「社会と業界のために、いかに貢献するか」を真剣に考えている人たちに支えられているところにあります。私たちの活動の強さ・尊さは、自らが様々な課題や悩みをかかえ、時間的にも多忙な人たちが、業界の健全な発展とさらなる向上、そして社会貢献への挑戦のために献身しているところにあります。



何が組織活動の活力源であるかを考えると、どんな組織も結局は一人ひとりの力で支えられていることにいきつきます。しかし、同じタイプ、同じ世代に偏った集まりには、豊かさも永続性も感じられません。老若男女、桜梅桃李の様々な人材が、そろって主体的に活動してこそ、未来への希望が生まれます。

意見が完全に一致する必要はありません。大切なのは同じ志を持つことです。同じ志を持ち、皆が個性を存分に光らせながら進むことができたなら、石材業界の未来は明るいと言えるでしょう。

石産協の活動の、「どれが」ではなく「どれも」が大切で、出過ぎず退き過ぎず、それぞれの役割を果たして全体でハーモニーを生み出すことで、石材業界の明日を拓くことができるのだと私は考えます。

本会は、「石材産業の健全な発展と更なる向上を図ると共に、新たなる石文化の創造に努め、もって社会に貢献すること」を目的に設立された団体です。その大目的は日々の積み重ねの先にあります。

石材業に矜持を持つ者が、業界の明日を作ります。

今なすべきことを今しておかなければ、未来に大きな悔いを残します。

今この瞬間に懸命に前を向いて進む中に、明日への希望が生まれると私は信じます。

未来は今にあります。未来はもう始まっています。

石材業界の未来を拓くために、自分のできることから始めましょう。その一步は必ず突破口を開きます。

私たちの成し遂げたことが次の世代の土台になります。一緒に汗をかいて心を通せ、共感を育み、後に続く世代のために、私たちの手で、石材産業の明日を拓いてゆきましょう。

総会及び年次大会2013の特集はP.3、P.4をご覧ください。▶

連載

# 全国縦断支部紹介



## 島根県支部



支部長  
加納 孝通

**支部設立**  
人 口 2008年3月  
71万人 男:34万人 女:37万人  
65歳以上が人口に占める割合:29.1%

**世帯数**  
人口密度 27万世帯  
105人／1km<sup>2</sup>

**総面積**  
なんでも  
ランクイング 6,707km<sup>2</sup>  
イカ・サバ消費量:全国1位  
公共事業費:全国1位  
中学女子バレー部員数:全国1位



[県章]

- Q.1** 最近はまっているものはなんですか?  
**ロングブレス**
- Q.2** 必ず毎日行う事はなんですか?  
**酒を飲む 本を読む**
- Q.3** 大好きなお酒とおつまみ(ごはんのおかずでもいいです)を教えてください。  
**島根の地酒「隱岐誉」 鯛のアラ煮**
- Q.4** 地域の特産物 おススメの一品を紹介してください。  
**あごのやき(あご=トビウオ)、宍道湖のシジミ、  
隠岐の白いか・岩ガキ、浜田の赤天**
- Q.5** おススメの観光地はどこですか。  
**出雲大社(いずもおおやしろ)…5月遷宮  
黄泉比良坂(よもつひらさか)…日本のお墓発祥地  
石見銀山(いわみぎんざん)…世界遺産**
- Q.6** 趣味・好きな言葉・愛読書は?  
**趣味…サビキ釣り 愛読書…人を活かす経営  
好きな言葉…先義後利榮『義を先んすれば、利は後に訪れ来る』**
- Q.7** もし今のお仕事でなかったらどんな職業につきたかったか教えてください。  
**漁師!**
- Q.8** 支部内の銘石を自慢してください。  
**来待石(砂岩):全国日本海側に彫刻品多数、通称出雲石  
福光石(凝灰岩):島根県西部にて450年の歴史**
- Q.9** 支部の活動を教えてください。  
**特別な活動はしていませんが「お墓なんでも相談室」を中心に  
終活イベントをしたいですね。**
- Q.10** 支部員のユニークの方を紹介してください。  
**岡崎帰りの両巨塔、前副支部長 岡本幸三さんと前支部長 田部哲朗さん。  
飲んだら誰も止められません。ちなみに岡本さんの息子さんは  
技能五輪日本一、田部さんは世界一です。島根は匠の宝庫です。**



## 福井県支部



支部長  
宝木 幹夫

**支部設立**  
人 口 2008年4月  
80万人 男:39万人 女:41万人  
65歳以上が人口に占める割合:25.2%

**世帯数**  
人口密度 17万世帯  
191人／1km<sup>2</sup>

**総面積**  
なんでも  
ランクイング 4,189km<sup>2</sup>  
コロッケ消費量:全国1位  
共働き率:全国1位  
中学男子バレー部員数:全国1位



[県章]

- Q.1** 最近はまっているものはなんですか?  
**終活イベントです。終活フェスタinえちぜんを行う実行委員なので。**
- Q.2** 必ず毎日行う事はなんですか?  
**一日に感謝する。**
- Q.3** 大好きなお酒とおつまみ(ごはんのおかずでもいいです)を教えてください。  
**シャンディガフ、ジンリッキー、ジーマ(でもあまりお酒は強くないです。)**
- Q.4** 地域の特産物 おススメの一品を紹介してください。  
**越前ガニ、越前おろしそば、ソースかつ丼**
- Q.5** おススメの観光地はどこですか。  
**大本山水平寺と東尋坊**
- Q.6** 趣味・好きな言葉・愛読書は?  
**趣味…ラジコン(飛行機・ヘリコプター)、スキー、オートキャンプ  
愛読書…斎藤一人さん、小阪裕司さんの本  
好きな言葉…『念すれば花開く』**
- Q.7** もし今のお仕事でなかったらどんな職業につきたかったか教えてください。  
**アパレル関係。おしゃれ大好きです! 自分のショップ持ちたかった。**
- Q.8** 支部内の銘石を自慢してください。  
**笏谷石(しゃくだいし)凝灰岩の一種で現在は採掘していません。**
- Q.9** 支部の活動を教えてください。  
**全国お墓なんでも相談室と有志による産業フェアへの共同出展。**
- Q.10** 支部員のホープの方を紹介してください。  
**みなさんユニークで個性的な人ばかり。  
この業界(アクが強い?)個性的な人が多いようです。**

第1回理事会(5月21日)において理事交代が承認されました。\*今年度の役員及び組織図については  
新理事  
■福島県支部長:宗像義治 ■群馬県支部長:田部井忠史  
をご覧ください。

### 新入会員紹介

会員数:1,278名  
(2013.5.21現在)

#### 愛知県



(有)磯貝彫刻  
会員代表:磯貝泰隆  
設立:昭和35年  
業種:加工

#### 熊本県



有宮村石材店  
会員代表:宮村 実  
設立:昭和47年  
業種:墓石・加工

### 会員の皆さまへ

第4回定時総会が無事終了いたしました。  
毎年開催に向け準備をしていく中で最も苦労するひとつが総会出欠の人数把握と委任状の回収です。今回は皆さまのご協力で返信率が高く非常に助かりました。総会欠席の場合、委任状は会を運営する上で大切な一票になりますので今後も提出必須、〆切厳守でお願いいたします。また、会員参加型の行事にはひとりでも多くのご参加をお待ちしております。[事務局]

# 第4回定期総会

2013年6月19日(水) 15:20開会  
都立産業貿易センター浜松町館

第4回定期総会が行われました。総会では経済産業副大臣衆議院議員 菅原一秀様、福建省石材行業協会会长 許榮旗様のおふたりから来賓を代表しご挨拶いただきました。議事では会長及び副会長の発表、説明の後、審議を行い総会資料に基づいたすべての議案について、全会一致で可決承認されました。皆さまのご協力で今年度も無事に総会を終了することができました。そしていよいよ実行に移すときです。各地区、委員会、部会は今年度掲げた計画の成功を目指していきます。すべては会員の皆さまのご協力なしでは成し得ない事業ですので、更なるご協力とご理解をお願いいたします。また、会員の皆さまにはお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。そして会場設営、受付などに朝早くからご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

**当日の総会出席者 208名**  
(オブザーバー含む)

■定足数:正会員1244名(過半数622名)

議決権出席者(正会員)	168名
委任状数(正会員)	561名
合計(定足数に達する)	729名



「前例にとらわれず、活動しよう!」  
射場会長



来賓の皆さま



経済産業省副大臣 衆議院議員  
菅原一秀様



福建省石材行業協会会长  
許榮旗様



総会出席者



議長 福川副会長



決算と予算についての説明  
財務担当・望月副会長



地区担当 白木副会長



部会担当 犬塚副会長



委員会担当 山口副会長



全会一致で可決承認



円滑な司会進行 上野広報委員長



飯館村捨て石の出荷基準について  
報告する株式会社 斎藤賢次氏



墓埋法の許可権限者移行による  
石材業界への影響について  
柴田社会調査委員長



お墓物語エピソード集について  
山口研修委員長

## 懇親会

2013年6月19日(水) 総会終了後  
アジュール竹芝

総会後、場所を改め行われた懇親会には約170名の方が参加されました。岸本副会長の開会、(社)全国優良石材店の会会長吉田剛様のご挨拶、全国石製品協同組合会長太田明様からの乾杯の合図で始まり、大いに懇親を深めた様子です。



地域も世代も違う「相談相手」を作るきっかけとなるこの年次大会の懇親会は、石産協の会員メリットの最たるものです。  
(射場会長談)

# 年次大会2013 2013年6月19日(水)・20日(木)

第4回定時総会にあわせて行われた年次大会2013。今年多くの会員の皆さまにご参加いただき大盛況のうちに幕を閉じました。

1日目は「こうすれば業界が元気になる」と題し、小阪裕司氏の講演会が行われました。2日目は9つのワークショップを開催し、ほぼ満員御礼、大盛況のうちに幕をとじました。



小阪裕司氏による基調講演



## 年次大会 2013を 振り返って

年次大会2013実行委員長  
戸高健司

年次大会2013はお陰様で、多くの会員の皆さまにご参加いただき盛況のうちに終えることができました。ご参加いただいた会員の皆さまをはじめ、設営から運営までご協力いただきましたすべての方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、本大会ではここ数年実施してきました常設展示をいたしませんでした。採石・加工・輸入卸・関連部会では、全国から会員が集まる機会に新製品や自社をPRする場を提供するという目的で始めたわけですが、回を重ねる毎に総会・ワークショップの参加者の内覧だけでは、出展者の負担に見合わなくなってきたことが大きな理由です。今後は、会員、出展者の双方にとって有益な「別の展示機会」を作ることに協力していく所存です。

ということで、本大会では、基調講演、ワークショップが、大会のテーマ「石材産業の明日を拓く！お墓の必要性を説く・国内加工業の再構築・中国との共生に向けて」に沿ったものとなるようコンテンツの充実に努めたつもりです。小阪裕司氏の基調講演では、『こうすれば業界が元気になる』という演題で、新しい消費の時代に物が売れるメカニズムについてご教示いただきました。年次大会としては新しい試みでしたが、いかがでしたでしょうか。

ワークショップは、大会テーマを支える柱である「お墓離れ対策」「国内加工再生」「中国との共生」についての3ワーク、会員の関心が高い時事テーマの3ワーク、継続的に行ってきました交流会系の3ワークという9つのワークに絞りました。その大半が、委員会、部会など協会の方々のご協力とご尽力があって実現できたものです。設営をいただいた方々には全参加者の皆さまより、賞賛の意を表していただけた幸いです。

最後に、年次大会は「定時総会にあわせて、会員の勉強する機会を！」という目的で始められた、会員による会員のための「会員の大会」だと考えます。これからも年次大会へ関心をお持ちいただき、ご意見、ご提案をいただけますようお願い申し上げます。



元気な石材店のビジネスモデル



日本人のお墓を日本の職人の手で



消えゆく中国墓石材



お墓販売に必要な終活カウンセリング



墓埋法の許可権限者移行による石材業界への影響



ポスト中国を探る！－インド・ベトナムの現地事情



第4回女性石材人フォーラム



集まれ！若手青年石材人



第9回ストンマン・カフェ

### A 大会テーマを支える3つの柱

#### I. 「お墓離れ対策」:

##### 元気な石材店のビジネスモデル

##### 《コーディネーター：射場会長》

パネラーに東京都株井口石材 井口健二氏／富山県有佐渡石材 佐渡栄寿氏／大阪府大阪石材工業㈱ 内海孝雄氏を迎えて自社の経営のコツなどをお話しいただきました。

#### II. 「国内加工再生」:

##### 日本人のお墓を日本の職人の手で《加工・採石部会》

株日本石材工業新聞社 山口康二氏の講演と東西の匠トーチバトルと題し、東日本代表(有)坂口石材工芸 坂口登氏vs西日本代表(株)大川石材 大川弘展氏の加工技術に対する熱いトークに石の目利き代表原産業㈱ 原伝氏を交えた注目の展開となりました。

#### III. 「中国との共生」:

##### 消えゆく中国墓石材《輸入卸商部会》

日本側、中国側にわかれ石材業界の現状と今後の展望などが話し合われました。

### B 会員の関心が高い3つの時事テーマ

#### I. 「お墓販売に必要な終活カウンセリング」

##### 《講師：(社)終活カウンセラー協会 武藤頼胡氏》

いま注目の『終活』を石材業界ではどのようにとらえるべきか。自分自身に置き換えて考えるヒントも得ました。

#### II. 「墓埋法の許可権限者移行による石材業界への影響」

##### 《社会調査委員会／講師：(社)全日本墓園協会 横田睦氏》

平成22年4月墓地の許可権限者が保健所から各市町村へ移行され、現状を横田氏から説明いただきました。

#### III. 「ポスト中国を探る！－インド・ベトナムの現地事情－」

##### 《コーディネーター：(株)沖セキ 緑間浩市氏 パネラー：岸本石材工業㈱ 岸本達也氏／有)永永舎 伴埜司氏／有)南印度洋行 前野敏夫氏》

豊富な労働資源を持つが未知なるインド・ベトナムの事情に詳しいパネラーから、現地について解説いただきました。

### C 繰り行なってきた3つの交流会系

#### I. 第4回女性石材人フォーラム

##### 《コーディネーター：長江曜子・岩崎令子》

男性の多い業界の中で活躍する女性同士の貴重な情報交換の場です。話題豊富で女性目線の頗もしい意見、発想が多く生まれました。

#### II. 集まれ！若手青年石材人

##### 《次世代育成ネットワーク委員会》

テーマは「お墓は石でなければいけない理由」。パルスディスカッションという新しい試みで、若手同士意欲的に意見を出しあい、各グループが真剣に討議を行いました。また、別会場での青年石材人交流会には25名が集合し、今後の展望を兼ね、懇親を深めました。

#### III. 第9回ストンマン・カフェ

##### 《加工・関連部会／コーディネーター：竹ノ内壮太郎・高橋省司》

「日本の石と加工、石材業の将来」に関して直面している問題をいくつか絞り込み、テーマの提案者が中心となってグループごとにその問題について具体的に考え、明日からの小さな一步、ネクストステップを発表をしました。中でも若手の育成体制、自社加工を進めるにはなど、すぐに取り組める事例もあり、相互に刺激しあうことで前向きに石材加工に取り組む内容になりました。

# 第4回石材加工講習会実施

**加工部会・関連部会 合同開催**

**2013年5月11日(土) 三和研磨工業(株)本社にて**

**受講者:実習11名/見学7名 合計18名**

日本石塔展覧会で優秀賞を受賞、また1981年アトランタで開催された技能五輪優勝の島根県、田部石材(株)田部哲朗氏を招き、「石をたたくのはいつですか?今でしょ!」と題し優秀賞の「鑿仕上げ五輪塔」ができるまでの解説、技能五輪優勝秘話など講演していただきました。聴講者は、矢で石を割り、ノミで石を削る昔ながらの加工を大切にする田部氏の心構えに感動していました。

実習では、手加工全般を京都府石材技能士会の協力を得て伝統工芸士、研磨工程全般は、三和研磨工業の技術系スタッフが対応しました。手加工講師の伊保先生が改めて石職人の技術とノウハウを学んでほしいと話し、研磨講師の加田先生からは技術と経験も大切であるが、理論を知る事も大事であるというご説明をいただきました。

質疑応答でも、さらなる知識を得たいと思う参加者からたくさんの質問がよせられ、講習会は時間が足りないほど盛況でした。また、「自らの技能の向上のために参加した」「日本での加工が減ってきているので、技術向上のためこういった技能講習の企画をして欲しい、今回のような講習会があれば、次回も参加したい」という声も多く聞かれました。

合同部会では石材加工の基礎知識が学べる講習会を企画し、さまざまな実習を通じて協会員の加工技術向上を目指す事を目的に、また業界全体を活性化させる意味でも重要であるとし、今後も継続的に開催していきます。[広報委員会 永谷吉局]



島根県田部石材(株)田部哲朗氏による講演の様子



手加工実習の様子



技術向上を目指す参加者

## TOPICS 都営八柱霊園合葬墓見学視察会の報告 2013年6月14日 千葉県松戸市

今年度新設される都営八柱霊園合葬墓視察会が行われました。当団は関東近県から200名を超える石材業界人が集まり、東京都職員の説明を受けました。この合葬墓は、芝生に覆われた盛り土の下に地下2層式で建設され、参拝者は従来の都営の収蔵施設同様、外部の献花焼香台でお参りをすることとなります(写真①)。今回は残念ながら内部の見学許可是下りませんでしたが、地下1階はロッカ一式で9,000体の骨壺が20年間安置され地下2階はお骨を布袋に移し、91,000体が収蔵安置されるそうです。お骨は写真の『受付(写真②)』にて手続きを行い都職員によって納骨されるとのことです。東京都では6月27日から募集を受付け、8月28日に抽選を行うとのことで、八柱霊園の合葬墓は今年度から運用が開始されます。[社会調査委員会 柴田清]



写真①



写真②

## 事業案内 2013 7月～10月

10月5日(土)

**2013年度 建築石材アドバイザー及び  
建築石材シニアアドバイザー試験**

全国建築石材工業会主催の試験日程が発表になりました。受験要項を同封いたしますのでご確認ください。締切:8月23日必着

8月29日(木)

**第2回常任理事会 東京**

9月9日(月)

**第5回正副会長会議 東京**

10月3日(木)

**第2回理事会 東京**

11月13日(水)

**九州沖縄地区全体会議 開催決定**  
詳細は次号でご案内いたします。

石産協の行事はgoogleカレンダーにて公開しています。支部の活動などもご覧いただけますので是非ご活用ください。URLは石産協ホームページの新着情報からご確認いただけます。【会員限定閲覧ページ ID:2013/パスワード:2013】

## お墓ディレクターNEWS

# お墓ディレクター委員会から重要なお知らせ

2004年にスタートしたお墓ディレクター検定制度も昨年度で10周年を迎え、これまでに1級2,820名、2級7,300名の方々が受検されました。記念すべき第10回目の検定は、2013年1月23日(水)全国7会場にて開催し、1級45名(合格率37.5%)、2級337名(合格率97.1%)が合格されました。現在、資格取得者は以下のとおりです。

ここで、「お墓ディレクター検定試験の目的」について、改めて触れておきたいと思います。『日本のお墓文化の発展とお墓の正しい理解と普及を図るために、お墓について幅広い知識、教養を備えた方々を審査し、その活動の円滑化と支援を図ることを目的とする。』この目的を達成すべくお墓ディレクター委員会は日々活動しております。

昨今、樹木葬や散骨、納骨堂といった石を使わない供養の形態が多様化を極めております。一般消費者にとって、本当の安らぎを得られるものは一体なにか。お墓を取り巻く環境も変化しつつある中、お墓ディレクター検定も、目的は変わらずとも、その内容・手法については、時代の変化と共に、常に変革を繰り返していくべきだと考えます。

そこで、お墓ディレクター検定試験をリニューアルするために新テストの作成を行うこととなりました。そして、第11回お墓ディレクター検定は、1年間のお休みをいただき、2015年1月にリニューアルして開催をしたいと考えております。受検を検討されていた方々には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、より良いお墓ディレクター検定にするために、委員会にて一生懸命準備をいたしますので、ご理解の程どうぞ宜しくお願ひいたします。【お墓ディレクター委員会 委員長 中村卓史】

■お墓ディレクター取得者最新(2013年4月1日)

<b>1級取得者</b>	<b>685人</b>
<b>2級取得者</b>	<b>4,726人</b>

## TOPICS 経済産業省 衆議院議員 菅原一秀副大臣を表敬訪問



5月21日(火)に射場会長、井口直前会長、中江専務理事、伯井涉外担当理事、広報委員である私の5名で経産省内の副大臣室へ表敬訪問しました。経産省は、日頃から当協会事業へのご理解とご協力をいただいていますが、副大臣とお会いするのは今回が初めてのことです。菅原副大臣へは、協会が今まで行ってきた事業と今後の業界へのご協力をお願いしました。菅原副大臣は、快く話を聞いていただくと同時に、6月19日の定時総会にご出席を約束していただきました(P.3参照)。こうした行政とのパイプ作りは、非常に大切なことと理解しております。伯井涉外担当理事曰く、今後は、経産省のみならず他の関係省庁へのパイプ作りも行っていきたいと考えているとのことです。【広報委員長 上野國光】

NEWS

## 『終活読本ソナエ』への広告掲載

産経新聞社では、「終活読本ソナエ」を7月12日に創刊します。「終活」という言葉は、昨年の流行語大賞でトップテンに選ばれました。最近では、終活フェアと称した相談会も全国で開催され、多くの消費者が参加し人気のセミナーとなっています。そういう意味からもこの雑誌は、注目される媒体となっていくと思われます。今年の広報委員会は、積極的に消費者へ「石産協の認知」と「お墓参りの啓発活動」を行っていきます。その一環としてこの媒体を利用し、広告展開を行うこととなりました。雑誌は、全国の主要書店で発売されます。定価880円(税込)。是非、購入しお客様への資料として配布、活用をお願いします。【広報委員長 上野國光】



編 集 後 記 【広報委員会 大塚崇行】

「第4回定時総会」「年次大会2013」では多くの仲間が集い、行なわれました。「石材産業の明日を拓く」というテーマで、変わりゆくお墓に対する行政や消費者の考え方に対する石材業界人としてどう対応していくべきかの答えを見つけることに、企画側は挑戦し、参加者側は探るような気持ちで臨んだ年次大会ではなかったかと感じました。

特に私としてはサブテーマの「お墓の必要性を説く」という事に石材業界人がそれぞれに確りとした考えを持つことが必要であると強く感じています。そこで私の父が常々話している事を一つ紹介させていただきます。それは供養という言葉に関してで、「供養」とは「人々と共に美しく良く」と書きます。法事をすることによりその先祖や親を中心に関係兄弟が集まり(人々に)、仲良く(美しく良く)すること自体が供養であり、そういう家は栄えて行くものであると言います。お墓を建てただけでなくお墓を建てた後も親戚兄弟が集まって仲良くしてくださいねと話してみてください。きっとお客様は喜んでくださると思います。と、そのような事を思い返した年次大会がありました。

情報は 石産協事務局【広報委員会】宛  
E-mail office@japan-stone.org  
Fax. 03-3251-7681

お待ちして  
おります!